

絵の具と画用紙、筆を置き、指示はなく自然に始めました。
子ども達は色を混ぜないように、戸惑いながら、紙面に塗り始めます。
色が混ざると「何で緑になるんだ？」と不思議そうです。
出した色は赤、青、黄色の3色です。
自分で混ぜて作った紫を「ムラサキどこ？」と探しています。
3色から生まれる、様々な色に出会っていききました。

大人が混ぜたり、こぼしたりをやって見せると、やりたい事を始めます。
紙上に絵の具を流し、マーブル状の色を見つめています。
ティッシュに染みていく様子に見入っています。
シートの上にこぼれた絵の具を自分で拭くと、はじいて点々になります。
紙が破れるまで塗り続けます。穴をつくります。
澱粉のりを出すと、手に塗り、見つめ、その感触と出会っていききました。

塗る、混ぜる、流す、指で描く、等、一人ひとりの遊び方がありました。
自分で考えたことを、自分でやってみる喜びは、大人も同じです。

大人は声掛けを控える事で、自分で考え、思いつき、集中していききました。
集中する眼差しは真剣です。そしてケンカもなく、静かです。

見守っていると、一人ひとりの行動には理由がある事が見えてきます。
素材や色の選択などを確認していくと、その子なりの楽しみ方、考えがある事がわかります。

のりをチューブから出し、染みたティッシュを丸め、絞り、いろいろな事を体験しています。
どうなるのだろう？どうしてだろう？と問いを立てて、確かめているようです。
起きる事をインプットしているはずですが、探求して学んでいます。
結果ではなく、そのプロセスが大事なのだらうと思います。
長い子で2時間近く遊び続けていました。

大人主導ではなく、自分の感性で遊び、探求する力を感じます。その姿は
選択肢があり、自分で決めていくことの大切さを教えてくれました。

